

2013年5月5日 マタイ6:9-13⑥「今日の糧を与えてください。」

主の祈りの後半にはあります。この主の祈りというのは、神中心の祈りといわれます。私たちというのは、自分を絶対化してしまう、そこに罪の本質がある。私たちは「自分への執着」に満ちている。自分であれしたい、これしたいという欲望、感情(憎しみなど)、そういうものに縛られてしまっている。どこまでも自分が中心の、貧しい愛しか持っていない。祈りということを考えても、これは本質的に危険を抱えているものでありまして、祈れば祈るほどにどんどん自分の貧しい思いにとらわれていくことになりかねない。自分がこうしてほしいという思いがどんどん強くなって行って、心から神を追い出しているということが起こりうるのです。

主の祈りというのは、そういう危険から私たちを遠ざけるために、イエス様が与えてくださったお祈りの手本です。イエス様という方は、私たちに視線の転換を促される方です。自分は どうしたいかということから、天の父はどうしたいと思っておられるか、そこに目を移しなさい。その時に魂の解放、自由が与えられる。自分の狭く、小さく、卑しい思いに縛られていた、魂が解き放たれて、神の見ておられる広く大きく豊かな世界へと、目が開かれていく。それがあなたがたの救いであり、幸いであると。主の祈りというのも、そういう自由へと私たちを導いてくれる祈りです。

これまで前半部分は「あなたの御名があがめられますように、あなたの御国が来ますように、あなたの御心がなりますように」、文字通り神中心の祈りでした。しかし今日の祈りは、ちょっと気分が違います。「今日の糧を与えてください」。糧というのは、文字通り食糧であり、今日の私が生きていくためのパンです。ごはんをください、実に現実的ですね。ずっと上を見ていたのが、地上に戻った感じ。地上的、物質的な求め。でも実は、この祈りも非常に神中心で、自由な祈りなのということです、今日は申し上げたいと思います。むしろこういう地上的な祈りを通して、イエスが教えてくださる自由ということがますます分かるように思います。

改めてテキストを見ますと、「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」とあります。まず「必要な」という言葉について深まっていきましょう。「必要な」=特殊な「エピウーシオス」という言葉が使われています。これは「存在のため、今日のため、来るべき日のため」とか、学者さんがあれこれ議論している。聖書ではここだけ、ギリシャ文学全体でもわずかな用例しかない語だそうです。私たちの教会の式文においては「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」、「日用の糧」というのは「日常用いる」だから「今日のため」ということでしょうか。ルーテル教会などでは「日ごとの糧」というのですね。こういう違いを厳密に考えてあれこれと議論するのは面白いのかもしれませんが、私は正直言って、そういう議論にはあまり意味がないように思います。むしろもっと総合的に、おおづかみにとらえていくのが良いと思います。そしてより大事なのは、その後の「今日与えてください」という祈りとの関連であると思います。

「今日与えてください」、これはまず第一に、①今日必要な分を、今日ふさわしく与えてくださいということでしょう。出エジプト記にはイスラエルの荒れ野の40年の旅路が記されていま

すが、その旅路においてはマナという不思議な食べ物がいつも与えられて飢えをしのぐことができたというのが印象的です。そのマナは、いつも今日必要な分だけ与えられるのですね。出エジプト 16 章。それは翌朝まで残しておくことはできない。欲を出してたくさんとってきたとしても、残しておくとも虫がついてくさくなってしまいます。主は毎日、ちょうどいいだけ与えてくださるといことが、象徴的に示されている故事であります。

箴言の中にこんな言葉があるのはご存知でしょうか。

「二つのことをあなたに願います。わたしが死ぬまで、それを拒まないでください。むなしいもの、偽りの言葉を／わたしから遠ざけてください。貧しくもせず、金持ちにもせず／わたしのために定められたパンで／わたしを養ってください。飽き足りれば、裏切り／主など何者か、と言うおそれがあります。貧しければ、盗みを働き／わたしの神の御名を汚しかねません。」箴言 30:7~9

貧しくもせず、金持ちにもしないでください。たくさんあると傲慢になり、神をかえりみようとなくなる。お金に縛られ、欲望の赴くままに振舞ってしまっ、神の道を踏み外してしまいかねない。かといって、少なければ、悪しき心の奴隷となってしまう。罪の赴くままに、ひがんでしまう。ねたんでしまう。そして隣人のものを欲しがり、盗みを働いてしまう。

これはなにも、中流がいいなんてことを言っているわけではないのです。「わたしのために定められたパンで、わたしを養ってください。」神が私のために、ちょうどいい分だけ定めてくださっているものを、感謝して受け取らせていただきたいという態度の表明。魂の自由のために、多すぎても少なすぎても駄目なんですね。ちょうどいいだけ与えてもらうのがいい。そんな風に、今日必要な分を、今日ふさわしく与えてください。それが「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」という祈りの含蓄です。

そして、そういうときの、「ちょうどいい」、あるいは「ふさわしい」というのは、これは自分の思っているちょうどよさとは違うのかもしれない。私は妻が作るカレーライスが大好きですから、カレーをよそってもらう時に、ちょうどいいだけくださいとお願いするのですが、妻がよそってくれる「ちょうどいい」は、私の「ちょうどいい」よりちょっと少ないのですね。そんな風に、神様が定めてくださる「ちょうどいい」は、私が思っている「ちょうどいい」と違うということはしばしばあることです。

そして当然のことながら、それはこの世のものさしではかるところの「豊かさ」というものとも違うかもしれない。「豊かさ」という言葉そのものが、人によって理解が様々ですね。今念頭においているのは、経済的・物質的な豊かさです。でもそういう豊かさとは違うところで、神は「ちょうどいい」のラインを設定しておられることはしばしばです。むしろ、神に従う者は、神の道への忠実を貫くがゆえに、地上的には不遇をかこうこともあります。まっすぐに生きようとして、会社の間人間関係がうまくいかないで出世できない・・・困っている人を助けてばかりで、自分の財産はすっからかんという人もいます。でも、こんな言葉があるのです。「**主に従う人が持っている物は僅かでも／主に逆らう者、権力ある者の富にまさる。**」詩篇

37:16

この世のものさしからすれば、豊かとはいえない、全然ちょうどよくもない。でも神の基準

から見れば、主に従う人の持っている命の豊かさは、権力ある者の富にまさるのです。そんな主に従う人の生涯をいつくしむ主の祝福は、その人にとって、まことにちょうどよく、ふさわしく与えられて、その人の魂を永遠の命まで確実に導かれるのです。「私たちに必要な糧を今日与えてください」という祈りは、そのような「私にちょうどいい」祝福を願い求める祈りであるように思います。

そして、もう一つ注目したいのは「わたしたちに」という視点です。「私に必要な糧」ではなくて「私たちに必要な糧」を求めなさいと、主は教えてくださったのですね。「私たち」という以上、だれか私ではない別の人のことをいつも覚えていなければならないわけです。私の家族、友人は当然でしょう。特に今、現実的経済的に困窮している兄弟姉妹がいれば、その方々のことを覚えながら、その方々と共に祈る意識で「私たち」と言うことは大切です。さらにはそこにとどまらず、もっと視野を広くすることも必要でしょう。十分な食糧を得ることができない、世界中のすべての飢える人々とともに祈ることへと私たちは招かれているのだと思います。神の憐れみを受けるべき、世界中のすべての飢える者と共に、「私たちに必要な糧を今日与えてください」と祈るのです。私の必要が満たされるためだけではない。私の必要だけを考えるならば、むしろダイエットのために今日の糧を少なくしてくださいとさえ願いかねない私たちです。そうではなく「私たち」の必要が満たされるように・・・。

そういう祈りを神はきっと聞き届けてくださると信じます。そして、そのような祈りがかなえられる時には、この私には、与えられるのではなくて、ささげることへと導かれる時があるのだということ、覚えていたいと思います。今すでに私に与えられている、私の必要以上の糧が、神によって用いられて、「私たち」の必要が満たされる。「わたしたちに必要な糧を・・・」という祈りは、そういうかたちで聞かれることもあるのです。

「第四の祈願は、世界政治の問題、世界経済の問題にまで拡がっていく。(ゴットフリード・フォイクト)」という言葉があります。「私たちに必要な糧を今日与えてください」という第四の祈りは、この世界で、私の、またすべての人の生活が維持されていくように。あらゆる格差が解決され、あらゆる貧困が解消され、すべての人に必要な糧が備えられるようにという、大きな祈りです。そしてその実現のために、私の富を用いてくださいとの意識をも、呼び覚まさずにはいない祈りの言葉でもあるのです。

最後に、ウエストミンスター小教理問答に示されている答えから、この祈りに関する洞察を得たいと思います。問 104

「第四の祈願では何を祈り求めるのですか。」

「答え: 第四の祈願で私たちが祈ることは、神の無償の賜物のうちから、私たちがこの世の良きものの正当な分を受け、それによって神の祝福を楽しむことができるように、ということです。」

この最後の言葉を、皆さんにもぜひ覚えていただきたい。この世の良きものの正当な分を受け、

それによって神の祝福を楽しむことができるようにしてください。楽しむという感覚を大事にしていきましょう。神様は、私たちを楽しませるために、様々な糧を与えてくださるのです。もちろん、ただ楽しい楽しいと快樂にふけていていいわけではありません。神の祝福を楽しむのです。今日の食事、今日の生活に、細やかな仕方でちりばめられている神の祝福の一つ一つに、もっと心震わせて、感動して、喜び楽しむのです。

私たちは、毎日の生活において、本当にたくさんの祝福を神から与えられているということを、もっとしっかり自覚すべきかもしれません。考えて見ますと、「今日の糧を与えてください」というこの祈りが教えられた当時のユダヤの人たちと、今の私たちでは生活の危機感がまったく違います。イエス様の前に集まってきた群衆の多くは、その日暮しでせいっぱいでした。もちろん現在の日本でも格差の拡大が問題になって、食うに困る人が増えてきています。でも多くは、飽食の状態。自分たちの環境がどれだけ恵まれていることかの自覚もない。それが与えられていることの感謝もない。神への感謝がなくなれば、人への感謝もなくなります。食べ物を提供してくれる人、生活を維持してくれる人への感謝も失われます。社会を批判するだけでなく、自分をかえりみて、本当にそう思うのです。

でも今は、たまたまこの国では、食べるものがたくさんあるというだけで、よく言われることですが、人間の歴史を一年で換算すると、こういう状態になったのは、ようやく 365 日目の夕方くらいからとも言われます。私たちに今日の糧が与えられるのは当たり前なことじゃない。すぐそばに危機があるのです。地球の温暖化のこと、戦争の危機、大地震の危険からは逃れられない、さらには奥さんのストライキという危機もあるのです。そんな中で、今日も食事が与えられ、生活が備えられている、このことは、本当に感謝なことです。もっと感動すべきことです。

今日与えられた食事の、小さな米粒の一粒一粒にまで、もっと感動し、感謝して味わいたいなと思うのです。そして、その神の祝福を思いっきり楽しみたいと願います。与えられた糧を目いっぱい喜び楽しむことで、神を見上げ、神の祝福を目いっぱい喜び楽しむ。これこそ、あのウエストミンスターの第一問に示された、「神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶ」という私たちのおもな目的にかなう生き方です。永遠に神を喜ぶ、それは神をエンジョイするという言葉です。あなたたちは神をエンジョイすることをいつも考えているのですよと、言われているのですね。生活の中には様々な楽しみがありますね。おいしい食事をエンジョイします。ショッピングをエンジョイします。趣味をエンジョイします。旅をエンジョイします。でも、そのすべてのエンジョイにおいて、神様に心を向けなさい。そのすべての楽しみを与えてくださっているのは神様だから、その神の祝福をしっかりと霊の目でとらえて、神を喜び楽しむことをいつも覚えていなさいと、聖書から示されているのです。そうして神を喜び楽しむことを知れば、日ごとの生活の喜びはもっともっと大きくなる。感動が大きくなる。神を心からエンジョイすることができれば、毎日の食事もきっともっと楽しく、喜ぶことができるでしょう。そんな風に、神の祝福をもっと「楽しむ」ことができますように・・・そんな願いもこめて、共に祈りましょう。

神よ、あなたこそよきものすべての源であり、あなたの祝福がなければ、私たちは一時も生きていくことはできません。私たちはあなたに信頼します。私たちに必要な糧を、今日も与えてください。今週も、私たちの生活にあなたの祝福を満たしてください。私だけではなく、私たちの必要を満たしてください。世界中の貧しい方々、飢えた方々に、必要な糧が備えられますように。そのために、私に与えられた糧をも用いてください。

主よ、あなたに感謝することの少ないものです。私たちの霊の目を開いてくださって、今週の私たちの歩みにちりばめられている、あなたの祝福を豊かに見て取ることができるようにしてください。そしてわたしたちが、あなたの祝福を、思い切り喜び楽しむことができますように。